

野生イノシシ捕獲に係る取組状況について

1 豊橋市及び田原市における野生イノシシの捕獲頭数について

2024年度の野生イノシシの捕獲頭数は、豊橋市228頭、田原市258頭となっており、2023年度の捕獲頭数を大きく下回っていた。

2025年度5月末時点では、豊橋市13頭（前年度同時期：12頭）、田原市38頭（同：21頭）となっており、2024年度を上回っている。

県が田原市内で実施する指定管理鳥獣捕獲等事業については、8月から事業開始予定である。

表1 野生イノシシの捕獲頭数の経年推移（頭）

市／年度	2019	2020	2021	2022	2023	2024*	2025*	
豊橋市	268	165	121	210	316	228	13	
内訳	有害	220	160	111	198	303	228	13
	狩猟	48	5	10	12	13	0	0
田原市	497	270	125	212	393	285	38	
内訳	有害	492	204	87	160	370	258	38
	指定管理	未実施	66	35	47	15	27	0
	狩猟	5	0	3	5	8	0	0
計	765	435	246	422	709	513	51	

※2024年度、2025年度（5月末時点）は速報値

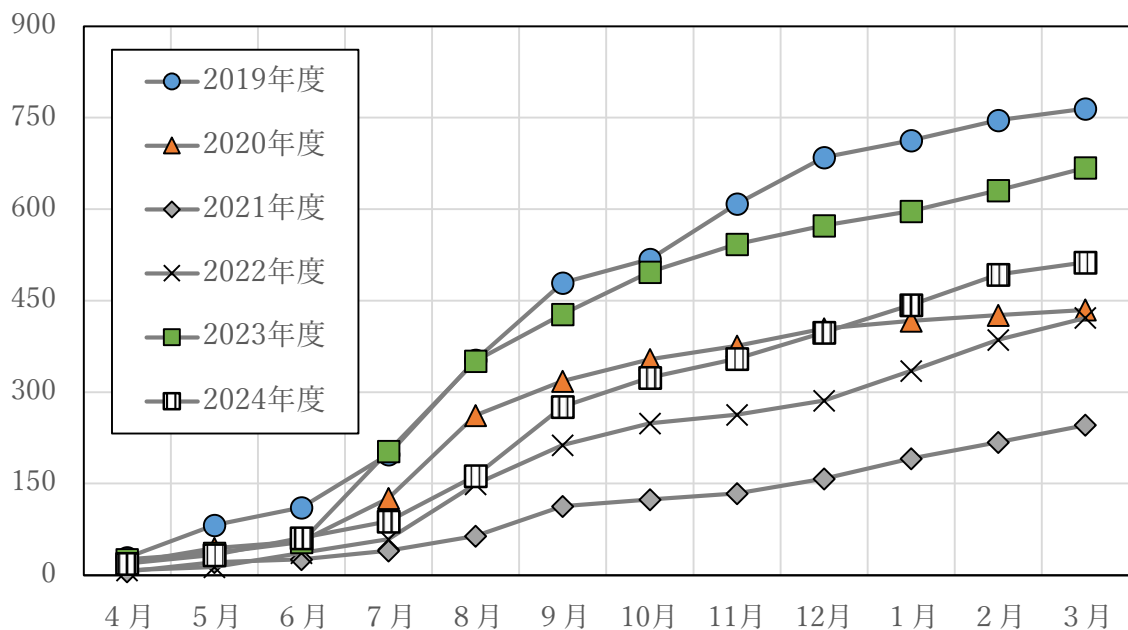
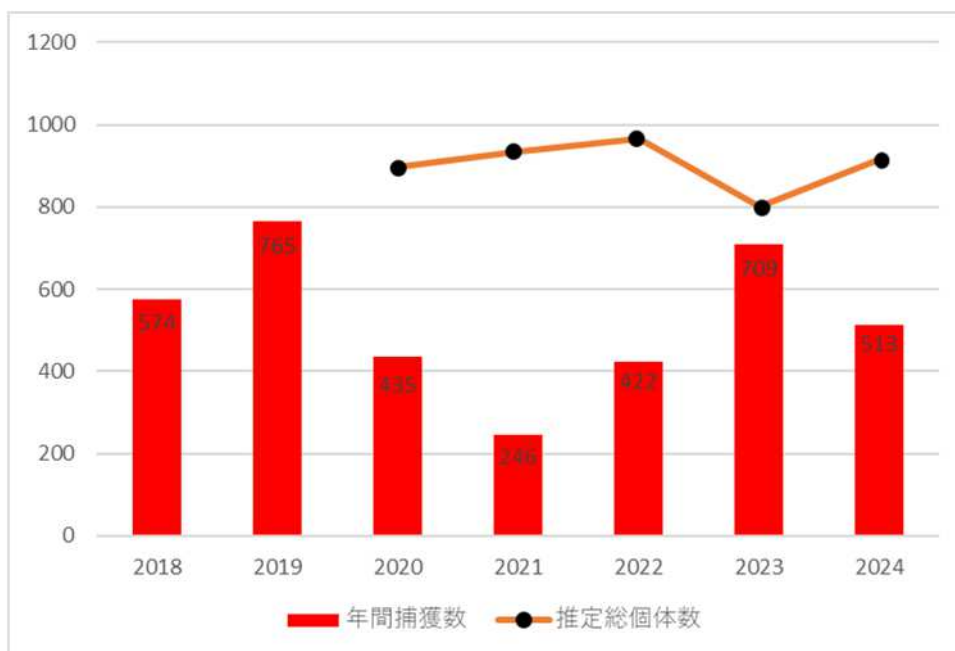


図1 豊橋市及び田原市における野生イノシシ捕獲頭数の月別積上推移

2 豊橋市及び田原市における野生イノシシの生息状況調査

愛知県では、田原市及び豊橋市南部において、2020年度から野生イノシシの生息状況調査（自動撮影カメラ調査、フィールドサイン調査）を実施している。これらの調査結果と捕獲データから総合個体群モデルにより、渥美半島全体での捕獲後総個体数を推定している。

推定によると2023年度に総個体数が減少しているが、2024年度には回復している。また、自動撮影カメラによる撮影頻度分布からも2023年度と比較して2024年度が大山山塊において撮影頻度が高くなっていることが確認されている。なお、特に撮影頻度の高い赤色部分は同一と思われる個体が同じ場所で長時間滞在していたことも高くなった要因である。



※最新のデータを追加して推定をすると、過去に遡って推定値が見直されるため、推定する度に過去の推定生息頭数も変動する点に注意が必要。

図2 豊橋市及び田原市における年間捕獲数と推定総個体数

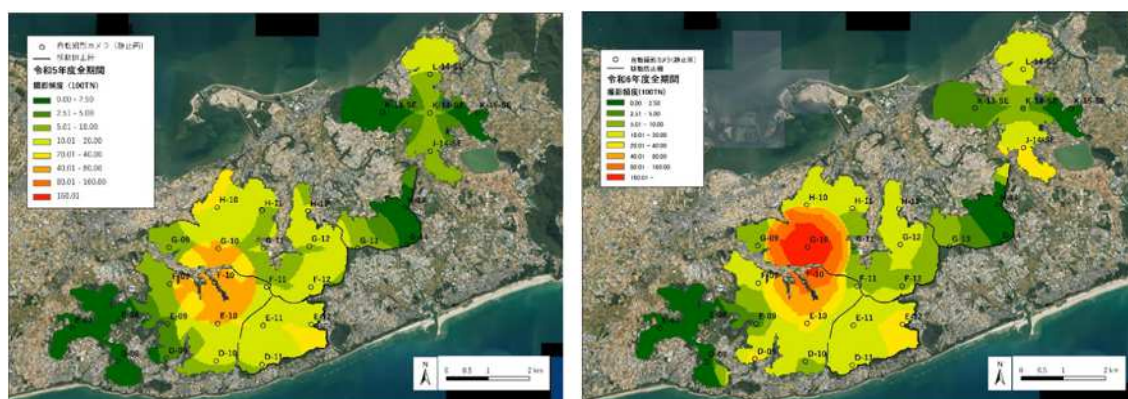


図3 自動撮影カメラによる撮影頻度分布（2023年度(左)、2024年度(右)）

3 野生イノシシによる農作物被害額について

野生イノシシによる農業被害額（速報値）について、豊橋市については2021年度以降増加傾向にある。田原市については年々減少しており、2021年度以降、被害額は低額で推移していたが、2024年度は急増加している。この原因としては、2023年度までの調査は主に団体への聞き取り調査のみとしていたが、2024年度分については農家全戸へアンケートを配布して実態把握を行ったため、結果が前年度までと大きく異なると考えられる。

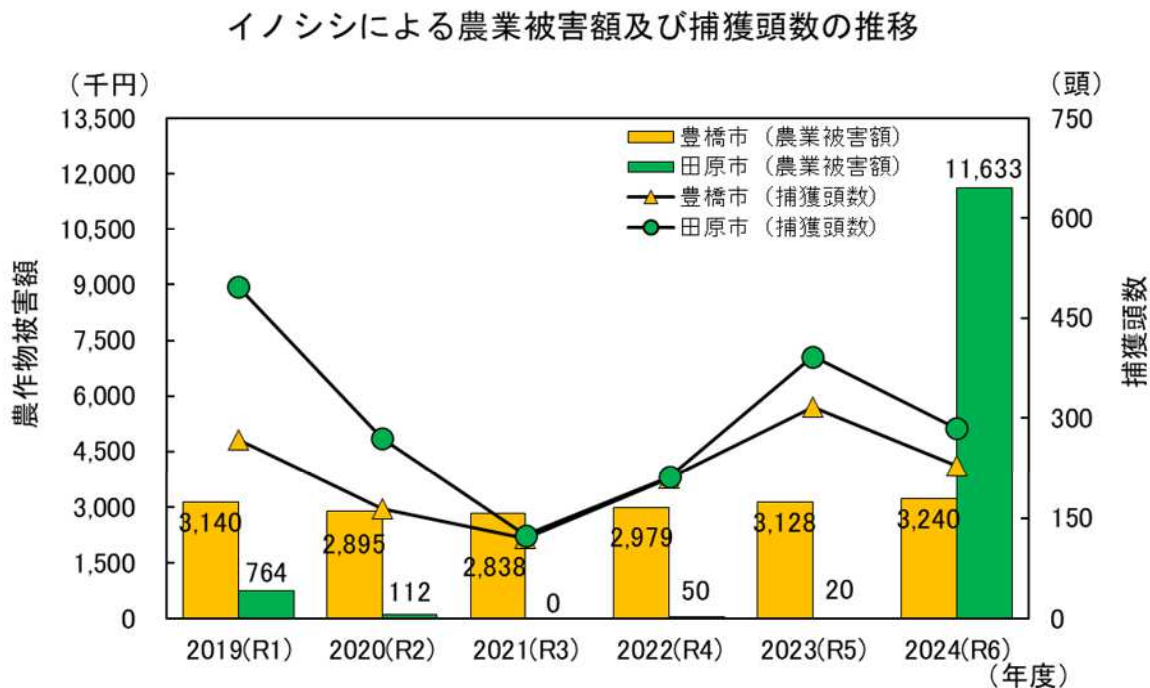
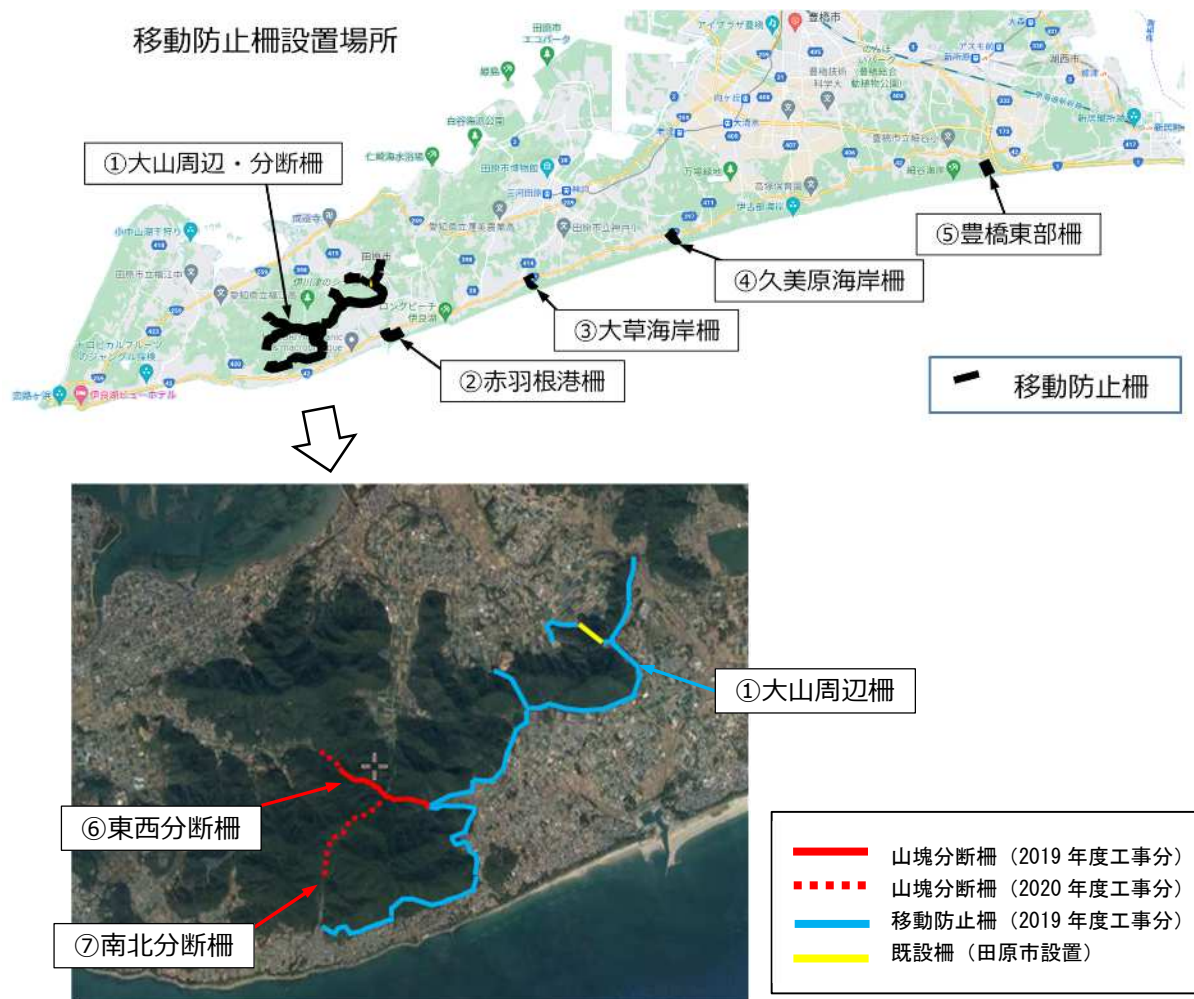


図4 野生イノシシによる農業被害額及び捕獲頭数の推移

4 移動防止柵及び山塊分断柵の維持管理状況について

愛知県では、渥美半島野生イノシシ捕獲根絶協議会における議論・要望を基に、豊橋市及び田原市における野生イノシシの侵入経路の遮断と効率的な捕獲を目的として、国の消費・安全対策交付金を活用し、移動防止柵（12.1km）及び山塊分断柵（3.9km）を2019～2020年度に設置している。今後、柵の償却年数も踏まえつつ、維持管理の在り方について検討を進める。



5 その他（資料1-2）

県内の野生イノシシの豚熱陽性個体確認状況について、2025年度は6月末時点で0件と、2024年度の2件（前年度同時期、通年では10件）と比べ低い水準で推移している。

県内の地域ごとの捕獲頭数（4～5月）について、県全体としては2024年度と比べ減少しており、2023年度と同程度で推移している。東三河地域については、豊橋市及び田原市では増加しており、2024年度と同程度で推移している。